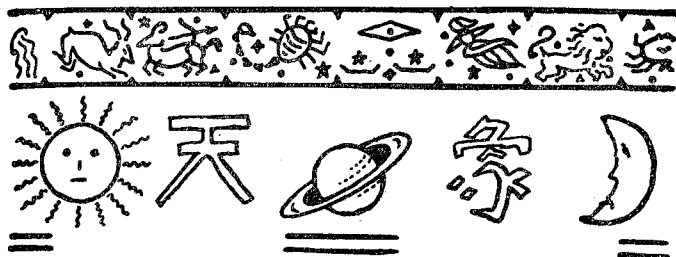


Title	天象
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1932), 12(131): 117-120
Issue Date	1932-02-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/161881
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

一九三二年



三月

太陽

日	赤 經	赤 緯	視直徑	星 座
1	22時47分22秒	南 7度42分	32分20秒	み づ が め
11	23時24分30秒	南 3度50分	32分15秒	う を
21	0時 1分 5秒	北 0度 7分	32分 9秒	う を
31	0時37分27秒	北 4度22分	32分 4秒	う を

月始め双鱼宮に在るが21日から白羊宮に侵入する。即ち、此の日が春分であつて、晝夜平分の日。日の出は6時0分、日入りは6時9分。これで見ると晝間の方が9分長いわけであるが、これは何故かと言ふに、日の出とは太陽上邊が見え始めた時、日没も同様上邊が没した時の時刻を言ふので太陽視中心が出没するのよりは晝が長くなる。それに蒙氣差のために、地平線下約太陽視直徑だけ低い所まで見える爲めに實際の地平線に達せぬ前から見え始め、實際の地平線下になつてもまだ見えてゐる爲めに晝間が長くなる。此等の理由で9分間の差が生じたのである。7日に**金環食**がある。

日の出は 1日6時27分、11日6時14分、21日6時0分、31日5時46分。日の入は 1日5時53分、11日6時1分、21日6時9分、31日6時17分。

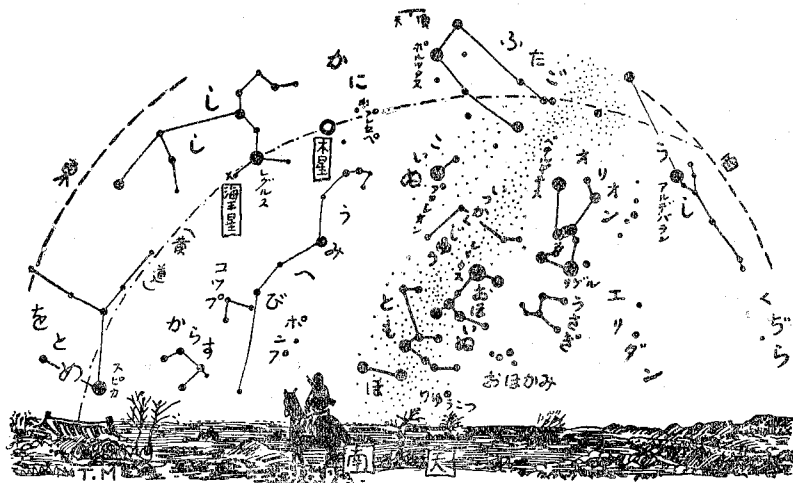
月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
新 月(日食)	7日午後 4時44分	29分54秒	み づ が め
上 弦	15日午後 9時41分	30分20秒	う し
満 月(月食)	22日午後 9時37分	33分21秒	し し
下 弦	29日午後 0時44分	31分33秒	い て
遠地點通過	11日午前 6時54分	29分30秒	う を
近地點通過	23日午後 6時12分	33分25秒	を と め
昇交點通過	8日午後 6時12分	29分40秒	う を
降交點通過	22日午後 5時54分	33分21秒	を と め

22日に**部分月食**がある。直徑の9割7分は缺けるので殆んど皆既食に近い。我國からは充分見る事が出来る。食の始まりは、午後7時59分12秒、食甚は同9時32分12秒、食の終りは同11時5分12秒。同日の月の出は午後5時57分、月の入りは翌日午前6時10分。

本月の**月の出**は、1日が午前2時18分、6日が午前5時52分、11日が午前 7時50分、16日が午前11時2分、21日が午後4時44分、26日が午後10時57分、31日が午前2時50分。

月の入は1日が午前11時41分、6日が午後4時56分、11日が午後9時43分、16日が午前1時40分、21日が午前5時10分、26日が午前7時54分、31日が午後0時45分。



太陽系

月と遊星との會合 3日午後 10時51分に月と土星とが會合になる。けれども此れは土星が月の北側へ4度20分も離れてゐるので別に面白い景色ともならぬ。次いで、6日に火星と月とが會合するが、これは新月に近く、殆んど觀望不能である。次の8日午後1時55分に月と水星とが會合する。これは、兩者の距離が僅か49分（角）なので面白いわけであるが、矢張り新月に近いと、日中であるため觀えぬ。次いで10日午前9時 26分に天王星と月の會合。兩者の距離は 2度51分で月の方が北側を通過する。翌11日午後3時4分には金星と月とが會合するが、此の距離も 2度21分程あるので大した見物にもならぬ。とんで19日午後0時42分に木星と月とが會合となるが、其の兩者の距離が2度47分ある。次いで21日午前3時29分に海王星と會合する。海王星が南側で 1度9分の距離にある。最後に31日午前8時38分に再び土星と月とは會合するが、今度も兩者の距離が4度11分もある。

水星と天王星との會合 此の會合は22日午前 5時に起るのであるが、觀望は前日21日の夕方がいであらう、丁度水星の東方最大離角に近く、且つ宵の空であるのも好都合である。但し兩者の距離が2度54分（水星が北側）であるのが少し物足りないが、……

金環食 7日午後4時頃に金環食があるが、我國からは見られない。見える範圍はスマトラ南半部、ボルネオの北側を除く大部分、セレベス、ニューギネヤの西半部、オーストラリアを含み、南極までの範圍で、金環食の見える所はタスマニアの南端から南極近くの洋上のみである。

部分月食 22日夕刻に起る。詳細は月の欄を見られ度い。尚ほ、缺け始める箇所の位置角は月邊の北から計つて東へ90度の所、缺け終りは同じく北から計つて西へ32度の所で終る。

遊星の近日點通過 火星は9日午後11時、水星は16日午後7時、金星は30日午前 5時である。

遊 星 界

水 星 宵の星であるが、月始めは太陽の光芒中にあつて、見得ないが、次第にその光芒から離れ、23日夕には東方最大離角18度40分となるので、其の頃が観望の頂上。即ち金星に次いで、第二の「宵の明星」となるわけ。31日には「うし」座の星附近で滞留となる。地球からの距離は月始めの二億軒であるが、次第に近付いて、月末には一億一千萬キロメートルとなる。

1日午前9時の位置は	赤經22時59分35秒2	赤緯南8度10分20秒
16日午前9時の位置は	赤經0時39分26秒4	赤緯北5度11分25秒
31日午前9時の位置は	赤經1時27分52秒3	赤緯北12度44分32秒

視直径は月始め4秒⁹であるが、月末には9秒³となる。光度は1等3程である。

金 星 宵の明星として西天に君臨し、今後益々観望には都合よくなる。殊に四月には東方最大離角、五月の最大光輝等をひかへ、あと二三ヶ月の間は今年中での観望の絶好期である。位置は述べずとも一見して分る通り、宵の西天に最も輝く星がそれである。地球からの距離は、月始め一億五千萬軒であるが月末には一億三千萬軒に接近する。

1日午前9時の位置は	赤經1時15分33秒1	赤緯北8度18分57秒
31日午前9時の位置は	赤經3時26分34秒1	赤緯北21度12分4秒

視直径は月始め15秒⁵であるが月末には19秒⁴となる。光度は負3等7程である。

火 星 曉の星ではあるが未だ太陽の光芒中にあつて観望は困難、但し月末にはいくらかよくなる。月末地球からの距離は三億五千萬軒である。

1日午前9時の位置は	赤經22時24分37秒8	赤緯南11度5分20秒
31日午前9時の位置は	赤經23時52分5秒8	赤緯南1度53分46秒

木 星 宵の東天に現はれて、西の金星と相對し、東西に明星を並べて、宵の空は甚だ賑やかである。まだ観望の好期である、地球からは大略六億七千萬軒の距離にある。

1日午前9時の位置は	赤經9時10分30秒9	赤緯北17度20分58秒
31日午前9時の位置は	赤經9時1分55秒3	赤緯北17度56分50秒

視直径は月始め41秒⁵、月末38秒⁸ 光度は月始め負2等¹、月末負1等⁹である。

土 星 曉の東天に輝いて、唯一の肉眼的遊星として淋しい曉の空を守つてゐるが、まだ観望の時機にはならぬ。地球からの距離は十六億軒。

16日午前9時の位置は	赤經20時17分15秒5	赤緯南19度53分46秒
-------------	--------------	--------------

視直径は約14秒、16日に於ける輪の長径は35秒⁶、短径は12秒³ 光度は正0等⁹。

天 王 星 宵の西天にあり、月末には太陽光芒にかくれて観望不能。

2日午前9時の位置は	赤經1時4分30秒9	赤緯北6度12分51秒
------------	------------	-------------

視直径は約3秒³で、光度は約6等³である。地球からの距離は約三十一億軒である。

海 王 星 木星の東、「しし」座の星附近にあり、光度7等⁷。視直径2秒半。

冥 王 星 宵の「ふたご」座にあり。小望遠鏡では観望不可能。